

DOMON KEN

土門がとらえた 世界遺産日本遺産



平等院鳳凰堂正面全景



泣く子



懐中時計

土門拳二大ドキュメント

筑豊のこどもたち／
生きているヒロシマ

WORLD HERITAGE

会期中無休
2018年7月20日金～10月1日月

10月1日(月)開館記念日 無料開放

会員券(1年間有効) 随時受付、特典あり

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料／一般430円、高校・大学生210円、中学生以下無料

イベント情報
夏休み企画

- ①7/28(土) 小中学生対象 夏休み親子ワークショップ ビンホールカメラ体験教室 ※要予約(7/7(土)、10時～予約受付開始)
- ②7/21(土)～8/19(日) 酒田市内小中学生対象 キッズスタンプラリー開催
- ③7/21(土)～9/2(日) 酒田市美術館共同企画 ワークシートにチャレンジして「世界遺産×日本遺産子どもマイスター」を目指そう!

Ken Domon Museum of Photography

土門拳記念館

山形県酒田市飯森山2丁目13(飯森山公園内)

TEL/FAX 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>



DOMON KEN WORLD HERITAGE JAPANESE HERITAGE

土門がとらえた世界遺産日本遺産



日光東照宮東回廊墓股眠り猫



大王杉 屋久島

土門拳二大ドキュメント



「生きているヒロシマ」被爆者同士の結婚



「筑豊のこどもたち」子沢山の炭住街

土門がとらえた 世界遺産日本遺産

土門拳の代表作「古寺巡礼」。戦前から始まったこの旅は生涯を通して続き、まさに土門のライフワークとなったテーマです。本展では多くの作品の中から、世界遺産、日本遺産に認定された寺院の建造物を中心に紹介します。

世界最古の木造建築である法隆寺、2011年に世界遺産登録された中尊寺、平成の大修理が行われている日光東照宮、そして日本遺産第一号の三仏寺など、著名な寺院ばかりですが、土門のカメラを通して見ると新たな発見があるかもしれません。心に迫る遺産の魅力をご堪能ください。

筑豊のこどもたち

昭和34(1959)年、石炭から石油への「エネルギー革命」のもとに強行された転換政策により、九州の炭田地帯には多くの失業者があふれていました。土門拳はこの年の12月、閉山の続く筑豊で失業にあえぐ人々とそのこどもたちを半月という短期間で撮りきり、翌年1月、ザラ紙に印刷した写真集『筑豊のこどもたち』を出版しています。「出来るだけ多くの人々にこの現実を知って欲しい」という土門の思いから100円という安価で出版されたこの写真集は、当時大ベストセラーとなり、ルポルタージュの名作として社会的に大きな反響をもたらしました。困窮した生活の中でたくましく生きるこどもたちの姿をとらえた、心に迫る作品です。

生きているヒロシマ

昭和32年7月、初めて広島へ行った土門拳は、原爆の被害を目の当たりにして以後、報道写真家の使命にかられ、憑かれたように広島に通い詰めました。そして原爆病院の患者たちをはじめ、被爆者たちの悲惨な日々、「魔の爪跡」を約7,800コマのフィルムに記録しています。

13年を経てもまだ原爆症と日々闘う人々、町は復興しつつあっても体や心に残る消えることのない傷、原爆がもたらした憎悪と失意。土門が広島の実の姿に真正面から向き合い撮影した記録をご覧いただけます。

酒田市美術館連携 土門拳受賞作特別展示

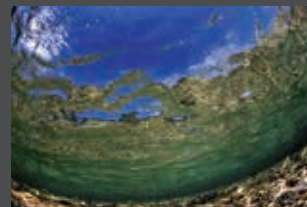
酒田市美術館「写真家たちの世界遺産展」(7/21(土)～9/2(日))でも作品が展示される土門拳受賞作家、野町和嘉、長倉洋海、中村征夫の3氏の受賞作を当館でも一部ご紹介いたします。



野町和嘉「バハル」「サハラ悠遠」より



長倉洋海「マスード 愛しの大いアフガン」より



中村征夫「海中2万7000時間の旅」より

土門拳記念館展示情報

2018年7月20日(金)～10月1日(月)

*** 10月1日(月) 開館記念日無料開放 ***

主要展示室

土門がとらえた世界遺産日本遺産

カラー 75点

土門拳のライフワーク「古寺巡礼」。本展では多くの作品の中から、世界遺産、日本遺産に認定された寺院の建造物を中心にご紹介します。著名な寺院ばかりですが、土門のカメラアイを通して見ると新たな発見があるかもしれません。心に迫る遺産の魅力をご堪能ください。

▼酒田市美術館連携 土門拳賞受賞作特別展示

酒田市美術館「写真家たちの世界遺産展」(7/21～9/2)でも作品が展示される土門拳賞受賞作家、野町和嘉、長倉洋海、中村征夫の3氏の受賞作を当館でも一部ご紹介します

<二大ドキュメントを同時展示>*****

企画展示室Ⅰ

筑豊のこどもたち

モノクロ 48点

昭和34年、石炭から石油への「エネルギー革命」のもとに強行された転換政策により、九州の炭田地帯には多くの失業者があふれていました。土門拳はこの年の12月、閉山の続く筑豊で失業にあえぐ人々とそのこどもたちを半月という短期間で撮りきり、翌年1月、ザラ紙に印刷した写真集『筑豊のこどもたち』を出版しています。100円という安価で出版されたこの写真集は、当時大ベストセラーとなり、ルポルタージュの名作として社会的に大きな反響をもたらしました。

企画展示室Ⅱ

生きているヒロシマ

モノクロ 30点

昭和32年7月、初めて広島へ行った土門拳は、原爆の被害を目の当たりにして以後、報道写真家の使命にかられ、憑かれたように広島に通い詰めました。13年を経ているまだ原爆症と日々闘う人々、町は復興しつつあっても体や心に残る消えることのない傷、原爆がもたらした憎悪と失意。土門が広島の現実に真正面から向き合い撮影した記録をご覧ください。

▼夏休みこども企画

7/21(土)～8/19(日) 酒田市内小中学生対象 キッズスタンプラリー

7/21(土)～9/2(日) 酒田市美術館共同企画

ワークシートにチャレンジして「世界遺産×日本遺産マイスター」を目指そう！

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地(飯森山公園内)

TEL/FAX: 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>